

令和7年10月10日(金)に第39回東北地区私立幼稚園教員研修大会が開催されました。当園では、その研修大会の研究のまとめを下のとおり、ホームページで公表することにしました。

お手すきの際に、研究のまとめの資料をご高覧いただければ幸いです。

【ECEQ®】子ども理解を深めウェルビーイングを高める保育実践 ～子どもの主体性「あれ？何だろう・やってみよう」を育む保育～							
ECEQ®メインコーディネーター 賀門康博先生(学校法人郡山開成学園 郡山女子大学附属幼稚園園長)							
ECEQ®サブコーディネーター 福土晴美先生(学校法人盛岡学園 認定こども園みなみ幼稚園園長)							
園名 学校法人北上学園 認定こども園専修大学北上幼稚園			園長 小原 栄子				
住所 〒024-0062 北上市鍛冶町1-4-70							
園児数	192名	公開学級数	5歳児2	4歳児2	3歳児2	2歳児1	0・1歳児1
公開日	令和7年10月10日(金)			参加人数			90名

【公開保育】

公開保育までの間、保育教諭間で日々話し合いを行い、子ども達が「あれ？何だろう」「やってみよう！」と興味、関心を広げられるよう環境設定を工夫してきた。園庭で自然に触れながら、いろいろな経験が出来るような環境作りを心がけ、進めている所であった。公開保育当日は晴天のなかで2～5歳児が園庭で砂遊び、黒土遊び、色水遊び、自然物を使った遊び、運動会ごっこなどをのびのび楽しむ様子、0・1歳児は室内遊びの中でそれぞれが好きな遊びを見つけて楽しむ姿や友達や保育教諭、異年齢で関わりながら過ごす様子が見られていた。

《0・1歳児》

室内でコーナー遊びを行った。普段から子ども達が親しんでいる、ままごと、段ボール、カラーボールの遊びの中から自分で好きな場所を選び、その場にいる保育教諭と一緒に関わりを楽しんだり、友達と同じ遊びを楽しんだりする姿が見られた。遊び方を限定せずに様々な遊び方に変化させることで子ども達が室内で楽しく遊び続けた。また、子ども達は床にテープで線路が作られていることを発見すると段ボールの中に入り、「いってきます」と手を振って電車ごっこを楽しんだり、ままごとでは、フェルトを重ねて「おいしい」と食べる真似をしたりと、それぞれのコーナーで伸び伸びと過ごしていた。保育教諭も一緒に楽しむことで、子ども達も安心して穏やかに過ごしていたように感じる。

《2歳児》

戸外へ行けることを喜び、張り切って片付けをしたり戸外遊びの準備をしたりする姿が見られた。たくさん参加者に戸惑う姿は見られず、いつも通り遊びを楽しんでいた。三輪車では、友達とレスキューごっこをしたり砂で洗車ごっこをしたりして楽しむ姿が見られた。また、保育教諭が作った泥だんごに興味を持ち、自分でも作ろうとするが、上手く作れず悲しそうな姿が見られた。保育教諭が作ってあげると嬉しそうにしていた。黒土の付いた手を地面につけてスタンプのようにしたり、砂場では型抜きや木の実などを使用してケーキや料理作りをしたりし、自由に楽しんでいた。

《3歳児》

草花の色水遊びでは、草花を擦る工程を楽しむ子、出来た色水を光にかざしてみる子、容器に移してジュースを作る子、それをトロッコに乗せて「移動ジュース屋さん」をする子など、一つのコーナーの中でも、一人ひとりそれぞれの楽しみ方で遊ぶ姿が見られた。また、「この花からはどんな色ができるのだろう？」「この花とこの花を混ぜたらどうなるのだろう？」という好奇心から自分なりに試行錯誤し、出来上がった色水を保育教諭や友達に見せて感動を共有する姿があった。コーナーの中で、上の学年の子の遊び方を見て真似て、擦り方や水を入れる量を覚えたり、ジュース屋の店員になって一緒に売り歩いたり、店員とお客さんのやり取りがあったりと、4、5歳児の優しさに触れながら一緒に遊ぶことを楽しんでいた。

《4歳児》

鉄棒や登り棒などに挑戦する姿が見られた。登り棒では、一番上にある鈴を鳴らしたり、「ここまで登る！」という目標を決めたりして、繰り返し楽しむ様子が見られた。保育教諭の援助を受けて目標に達したことを喜び、「次は自分で登ってみよう」と意欲的に取り組んでいた。黒土遊びでは、ビニール袋に黒土と水を入れてもみ、スライムに見立てていた。水の量によって感触が変わることに気づき、友達と触って比べたり、保育教諭に「触ってみて！」と作った黒土のスライムを見せたりしながら楽しんでいた。袋の上から感触を楽しんでいたが、次第に袋から出して手で直接触って感触を楽しむ様子に変化し、遊び方もダイナミックになっていった。

《5歳児》

砂場にて樋を使った遊びが5歳児中心に行われた。「砂場を一周した川やダムを作りたい」と子ども達。早速作り始めると、3・4歳児がやってきた。5歳児が掘って水を流して繋げた川を4歳児も“やってみよう”だが砂が崩れる。5歳児は“やめて崩さないで”という思いの繰り返しであった。その中で「ここ、掘ってもいいよ」と年下の子どもに優しく教える姿が見られていた。5歳児は最後まで楽しみ、樋が外れて水が溢れた時は自分達で気付いて樋を直したり、上手く水が流れないと「どうしてかな」「ここが低いんじゃない」と話しては工夫したりして遊ぶ様子が見られ、最終的に完成すると「やったー」と喜んでいった。

【分科会】

公開保育中に本園職員が見ていただきたい視点を「問い」という形で提示し、参加者は付箋を用いてその問いに対する意見等を模造紙に貼り付けていった。それらをグループ協議の題材として、話し合いをすすめていった。

全学年共通の問い

自分から進んで遊びを楽しんでいる子どもの姿や “ここが良かった” “こうすると良いかも” といった環境構成について気付かれたことがありましたら教えてください。

《0・1歳児》

問い 子ども達の生活や遊びの意欲を高められるように意識して一人ひとりに寄り添い保育を行っています。今日の子供達の様子を見て感じたこと、また皆さんの園での工夫がありましたら教えてください。

◆協議内容

「移り変わる子どもの興味に保育教諭が都度さりげなく少しずつ環境を変えることで“遊びたい”気持ちが続くことがない」という意見をいただいた。保育教諭はその場に応じて臨機応変に対応していたが、複数担任であるからこそリーダーの思いや考えを共有し、統一した関わりを持つことの重要性も感じた。0・1歳児の保育では、安心できる環境や保育教諭との信頼関係が土台となるため、毎日の歌や手遊び、声掛けを大切にしていきたい。

次に「同じ遊び・同じ遊具で遊ぶ時間が続く中で飽きずに遊べていたのは保育教諭の遊び方や声掛けがいいからだと思った」「手作りおもちゃの温かみが感じられ、それぞれのコーナーで安心して遊ぶ子ども達の姿が見られました」という意見について話し合った。同じ遊びを繰り返す中で満足感を得られる子もいれば、刺激を求めて次に移る子もいる。保育教諭は子どもの様子から「今は見守るとき」「声を掛けるべきとき」を的確に判断し、一人ひとりに無理のない関わりを行っていた。参観では不安定になる子も見られたが、「個々のペースを尊重して対応できていた点がよかった」という意見をいただき、環境構成の重要性を改めて実感した。

また、「同じコーナー遊びでも既製品ではなくフェルトを用いるなど、子どもの創造性を引き出す工夫が印象的だった」「遊びを固定せず、子どもの思いを瞬時にキャッチして展開していく姿から、保育教諭の柔軟性と観察の大切さを学んだ」と嬉しいお言葉をいただいた。

「室内と外が繋がっている環境を生かして自由に行き来して遊ぶことはしていますか？」については、職員数や導線上難しさもあるが、今後の遊び方として理想的であると思った。

最後に「水分補給は時間が決まっているように感じた」では、個々の飲水量を把握し、一斉に行うことが適切だということにまとまった。

今後は子どもの興味をよりの確に捉え、環境や遊びを工夫しながら、安心して過ごせる保育環境を作っていくように努めていきたい。

《2歳児》

問 2歳児の遊びをどう広げられるかを考え、環境構成の中で素材や遊び方、手作り玩具の活用などについて思案しているところです。今日の様子を見て「こういうものがあると遊びが広がりそう」と感じた点や、皆さんの園での遊び方の工夫について教えてください。

◆協議内容

ずっと三輪車に乗っていた子がたまに「ただいまー！」と保育教諭の所へ帰って来たり荷台に砂場の物を載せたりとよくイメージして自由に遊ぶ姿が見られていたというお話しから、穏やかな声で話したり指示や禁止言葉が無かったりすることで、安心できる環境があるからこそ遊び込む姿が見られたのではという意見があった。また、三輪車に乗っていた子が転んだ際に「レスキュー来るから大丈夫！」という言葉聞き、保育教諭が必要以上に援助しすぎないことでハプニングも遊びに変わった。保育教諭が子どもの興味や遊びを理解しているからこそ、介入したい場面でも見守るという関わりに繋がり遊びが広がったのではという意見も出た。保育教諭が子どもの姿をよく見て理解し、見守ることの大切さを改めて感じる事が出来た。

次に遊び方の工夫について話し合いを行った。他の園での遊びの工夫として、次のことがあげられた。

- 小麦粉粘土でピザづくりを楽しんだ後オープンで焼き、戸外遊びに出して以上児と一緒にピザ屋さんごっこを楽しんだ。
- 家庭でお祭りを経験した子ども達が「皆でやりたい」と話したことから、折り紙や花紙などを使用してアイスや金魚などを作り、未満児でお祭りごっこを楽しんだ。
- 子ども達が好きな絵本から表現遊びが始まり、お面を作ったり踊りを踊ったりして楽しんだ。

話し合いを行うことで他の園の遊びの工夫や遊びの広がりを知ることが出来た。1つの遊び方で終わるのではなく、作った物を戸外遊びにも出してみたり素材を混ぜたりカップに入れたりすることで違う遊びが広がっていく姿が多く見られている。これは室内、これは戸外と決めないことや、1つの遊びからどのような広がりがあるかを考えることが大切だと感じた。

子ども達が何に興味を持ち、どんな遊びを楽しんでいるかを日々観察することで子ども理解に繋げていく。また、安心できる環境作りや見守る関わりを引き続き心掛け、これからも子どもの主体性を育む保育ができるようにしていきたい。

《3歳児》

問 子ども達は友達と関わり夢中になって遊んでいたでしょうか？夢中になっている様子や、逆に遊び込めていないかなと感じた姿が見られましたら教えてください。

◆協議内容

「子どもなりに工夫して遊んでいた」「色が出なくてもそれが経験」というお話しから、夢中になってじっくり遊んでいたことを実感できた。その為には、保育教諭が子どもの興味を捉えて遊びの環境を設定すること、子ども達の姿からきっかけ作りや工夫を取り入れながら、遊びをサポートしていく大切さが必要なのだと感じた。自ら遊びに向かう姿が多く見られるが、一部で友達と遊びを交えて楽しめない子についての悩みがあった。「上の学年の遊びに3歳児が入って遊ぶ様子がとても多く見られていたので、そこから遊び方や友達と一緒に遊ぶ楽しさを学んでいる良い環境ではないか」という、前向きなご意見をいただくことができた。また、各園で行っている遊びや活動を様々教えていただき、もっと掘り下げて語り合いたいと感じる程だった。子ども達が継続してきた遊びをどう展開させていけるかを考え、今後も子ども達の興味を持続させられるよう、遊びの充実や場の設定をしながら、子ども理解についてじっくりと向き合っていきたい。

「トロッコがあることで移動ジュース屋さんを楽しんでいた」という意見について話し合った。色水ジュースを乗せたトロッコを押す4歳児と、「移動ジュース屋さん」の旗を持って隣を歩く3歳児の遊びの場面について、「コップの中に入っている水をこぼさないようにトロッコを押す速度を自分で調節

して遊んでいた」「異年齢の関わりが自然に行われていた」との言葉をいただき、子ども達にとって、充実した時間になっていたのではないかと嬉しく感じた。また、「色の濃い泥水はコーヒー、薄い泥水はりんごジュースというイメージを持って遊んでいた」という話があり、保育教諭はきれいな色水ジュースを作れるように援助をしようとしていたところがあったが、その子が何を楽しんでいるのか、思いやイメージを受け止めて一緒に遊んでいくことも大切だと学んだ。

《4歳児》

問い 今日の様子で「良いな」と思ったことや「ここをこうした方が楽しめそう」と感じたことはありましたでしょうか？また、遊びの環境設定について、皆さんの園での工夫があれば教えてください。

◆協議内容

「鉄棒で前回りができるようになりたい」「登り棒で上まで登ってみたい」と目標を持って頑張る姿を見ていただき、参加者の方から、子どもの頑張る姿や保育教諭の援助により成功した時の嬉しそうな表情を見て、喜びを沢山共感できる環境は素晴らしいとお話していただいた。ひとつのことに夢中になれることの素晴らしさを改めて感じ、子どもの思いを受け止め、引き続き丁寧に関わっていきたく思った。

また、話し合いの中で、環境構成で良かったところを教えていただき、子ども理解をしているからこそ、良い環境を準備することができ、それによって子ども達が自分で考えたり、試したりすることができるのではないかとこの考えにまとまった。子ども達自身が気づきながら遊ぶことが主体性に繋がっていくのではないかとこの意見も出た。

“外と中での繋がり”について話し合い、これまでの遊びの中で、遊ぶ場所の制限をかけてしまっていたと振り返った。話し合いの中でも、保育教諭の思いだけで遊び場や遊ぶものの制限をかける理由にしてはいけないと意見が出た。沢山のご意見をいただき、本園は保育室から園庭にすぐに出られるよう学年玄関があり、この環境を十分に生かして外と中での繋がりを目指していきたいと考えた。具体的に、室内で製作したものを戸外遊びに取り入れられるように環境を設定したり、絵描きや絵本も戸外で楽しめるようにしたりすることで遊びの広がりにつながるようにしたいと思う。今回の分科会を通して、好きな遊びを夢中になって遊べる時間や空間などを確保することが、保育教諭の重要な役割だと感じた。そして自由遊びは、一人ひとりとじっくり関わることができ、その子を知れる大切な時間だということも改めて感じた。他園の遊びの様子や工夫などを知ることができ、学びの多い協議となった。学んだことを生かしながら、子どもが明日も幼稚園が楽しみと思えるような遊びの工夫を行っていきたい。

《5歳児》

問い 子ども達同士が遊びの中で関わり合い、どのような興味・関心が出ているのかを、より知ることが出来たらと思っています。今日の様子の中で友達と教え合ったり、認め合ったりして遊んでいた場面がありましたら教えてください。

◆協議内容

マーチングごっこでは中心となる女児が加わったことで盛り上がり、歳下の子ども達に教える姿が見えた。鉄棒や登り棒など頑張ってきたということから、自己肯定感が高まっているという評価をうけた。また、先生達が子どもの思いを大切に声かけをすることで主体性を大切に保育に繋がっているという意見があった。環境構成として畑での虫取りが話題となり、自由に子どもが出入りしていることから、虫の飼育・生命について話が広がった。ある園からは「虫も人間と同じ命があるから大切に、自然に敬意を持って」「幼い時に命というものに心を寄せることも大切」と大学の先生から伺ったと教えていただいた。

「興味のあることだけ行い、なかなか皆と一緒に行えない子について」は、その子の思いを感じ皆で認め、やりたいことを十分に行わせる。周りがその子を受け入れる環境が大事であるとアドバイスをいただいた。ある園から「良い子の木」の話を伺った。その子の良さを認め皆の前で褒めることで自己肯定感が高まるという取り組みであった。

当日の様子から、3歳児が水道で玩具を流して洗っていた時に、水圧が強く水しぶきが飛び散り、それに気づいた5歳児がさりげなく調整してあげる様子が見られ、異年齢の子との関わりが上手で、言葉

や行動に移すことができたと話が出た。今まで異年齢でもっと関わりたいが難しさを感じていたが、自然に関わりが持っていたようだ。

5歳児「一人でやりたい」、4歳児「一緒にやりたい」の仲介についても話し合った。グループ協議の中で「そよ風ミーティング」という子ども会議が代々伝わっている園の話を伺った。子ども達が気になることや困ったことがあると自然と話し合いが始まり、それを見て育ててきているので、何かあったら5歳児に助けてもらえるという姿に繋がっているとのことだった。やってみて「そんなやり方があったんだ」と相手の良さ、他の人の考えに触れる機会を持てるようにすることも大切という話があった。

【成果と課題】

＜成果＞

- ・丁寧な子ども理解を行うことで、その子ども達に合った環境構成や援助、関わりが見えてくるということに改めて気づくことができた。
- ・遊びのコーナー設定を行うことで、自然な異年齢交流の場を作ることができた。また、そのコーナーの中で、自分で考えたり、試したりして主体的に遊び学ぶ姿が見られた。
- ・人的環境としての声掛けの加減や配慮を意識して、子ども達と一緒に考えて試し、学んでいくことができた。

＜課題＞

- ・子どもの「やりたい！」を制限しない環境作り、援助が必要である。
- ・環境設定の見直しや新しい遊びの研究を進めるとともに、検討の必要がある。
- ・子どもの育ちに必要なトラブルの見極めが必要である。子ども理解や保育教諭の力量を高めるために、より深く研究を進めていく。
- ・自由に行き来できる環境を作っていく。(室内と戸外、クラスとクラス、保育室とホールなど)
- ・子ども達が進んで片付けられる環境や習慣、声掛けの工夫が大切である。
- ・戸外遊びで作ったものを保護者や子ども達、保育教諭に見せる工夫を心がける。
- ・異年齢交流をする中で、上の学年が手本となり、下の学年がそれを真似できるような関わりの継続が必要である。

【公開保育を終えて】

グループごとの協議で、保育教諭自身が思っていた以上に、子ども同士や異年齢同士での関わりが見られ、主体的に遊ぶ姿や遊びの展開の様子、子どもの声など、参加者の先生方にグループ協議の中でたくさん教えていただいた。子ども達の成長を感じたり、保育教諭が取り組んだりしたことが参加者の先生方にも伝わったことに喜びを感じる事が出来た。

11月に行ったSTEP5では、コーディネーターの先生方にもお越しいただき、公開保育で「問い」について参加者の先生方からいただいた意見・感想を分類した。本園の強みと弱みを整理しながら、すぐに取り組めることをあげていくことで、さらに今後どのように取り組んでいけばいいのか明確にすることができた。

日々、保育教諭間での話し合いを持つことを継続し、環境構成はこれでよいということはないので、常に子どものウェルビーイングを願いながら工夫していこうと思う。

東北大会での公開保育、そしてECEQ®の取り組みとわからないことがたくさんある中、どの職員も不安でいっぱいだったが、メインコーディネーターの賀門先生、サブコーディネーター福土先生にお越しいただき、対面で話すことで不安が少しずつ解消されていった。また、自園の強みや弱みに目を向けることで保育の方向性を見出すきっかけが作れたように思う。職員同士の対話がなかなか取れない中ではあるが、このECEQ®を行ったことにより、自分にはない考えを知るきっかけとなったり、職員間のコミュニケーションの大切さを改めて感じたりすることができた。自園の職員だけではなく、コーディネーターや公開保育に参加した先生方と保育を語り合えたことが、今までの研修や公開保育では得られなかった経験だと思う。第三者に保育を見てもらってそれをフィードバックできる研修のすばらしさを実感できた。